



白神通信

藤里森林生態系

保全センター

令和2年3月18日

No.91

谷藤所長の四方山話 —令和元年度を終えて—

今年の冬は各地で積雪が少ないと新聞等で報道されていますし、皆さんも過ごしやすい冬を実感していることと思います。この藤里森林生態系保全センターのある藤里町も例年であれば二尺程度は積雪があるのですが、「雪は降るもののすぐに消える」をくり返す例年とは違った天気のおかげで各種団体が企画するイベントが中止に追込まれています。また、日頃巡視を行っている藤里駒ヶ岳やニッ森等の白神山地については、道路が冬季閉鎖されているので積雪の状況を伺い知ることは出来ませんが麓と同じように少雪と思われますので、例年に比べ非常に早い芽吹きを迎えることとなるでしょう。水不足にならないければ良いのですが…。

さて、早いもので令和元年度も終りを告げようとしています。今年度は2年ぶりに県道西目屋二ツ井線が全線開通したこともあり昨年に比べ白神山地周辺への入込者が多く、岳岱自然観察教育林や釣瓶落峠といったアクセスの良い箇所では県外ナンバーの車両が目にとまりました。また、ブナの実の結実は大凶作となったものの、秋の冷え込みが緩かったおかげか紅葉の期間が長かったように思います。

当センターではこの間、合同パトロールへの参加も含め巡視活動を行ってきました。巡視の結果、樹木の損傷や盗掘などは見あたらず登山者のマナーは定着しているものの、禁漁区内での溪流釣りと思われる入山者や釣用品のゴミが見受けられたとの情報もあり、巡視箇所や巡視の時期について検討していかなければならないと感じています。

一方、ニホンジカの生息については、寄せられる目撃情報が減少してはいるものの、依然としてセンサーカメラによってニホンジカが撮影されていることから、今年度は越冬しそうな箇所に冬期間もセンサーカメラを設置し生態調査をしているところです。また、捕獲用の囲いわなについても同じ箇所へ設置して5年目になり反応が見られないことから、設置箇所を移動し周辺に生息している動物の反応について新たに調査を開始しました。引き続きニホンジカを目撃した場合は、各自治体や各森林管理署等へ情報をお寄せいただきたいと思います。当センターでもいただいた情報等については、関係機関と情報共有を図りながら引き続きニホンジカ対策を講じて参ります。

さて、今年度は藤里中学校の生徒の皆さんと藤里町社会福祉協議会の「まち自慢講座」の方々が当センターを訪ねてくださいました。日頃、フィールドでしか市民の皆さんとお会いする機会がなく、一方的にマナー遵守や安全歩行のお願いをすることが多かったことから、今回ゆっくりと着席して白神山地に対する考えや藤里町の歴史などについてお話しをすることができたのは職員にとっても貴重な経験となりました。なお、当日の様子などにつきましては東北森林管理局広報2月号に掲載されておりますので、そちらをご覧くださいと思います。

以上、令和元年度を終えるにあたり心に残っている主なことをとりとめも無く書いてみましたが、迎える新年度においても引き続き白神山地の保全にむけ業務を進めて参りますので引き続きよろしくお願ひします。

令和元年の巡視活動を振り返って

1. 当センターによる巡視活動

昨年4月に当センターに赴任し、最初に巡視活動をしたのが5月24日(金)のニッ森でした。天気も良く新緑と残雪が入り交じった山々はとてもきれいでしたが、登山道上のぬかるみに敷いている木材は一部腐朽が進んでいるものも見受けられました。

6月27日(木)は水沢山ブナの森公園から粕毛川源流部の巡視をしました。ここでは遺産地域を示す看板の柱が腐り倒れていました(後日、西目屋自然保護官事務所の皆さんが撤去して下さいました)。初めて核心地域に入り粕毛川源流の川を見たらイワナがうようよいて、ここなら俺でもイワナが入れ食い状態だなと思いました。世界遺産地域内はもちろん全域禁漁区ですが、これだけ魚影が濃いと違法な釣り人も多いのでは?と感じました。

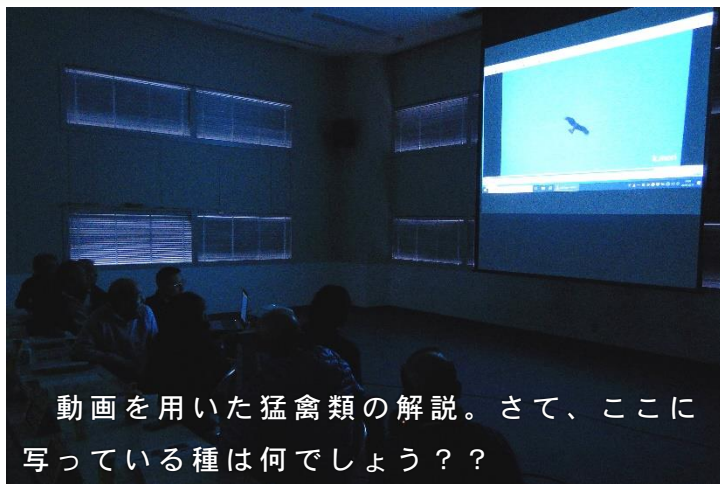
8月6日(火)は平地で30度を超す真夏日でした。この日は小岳山頂まで2時間程かけて登り、登山道沿いを巡視してきました。猛暑の中ペース配分を誤り飛ばしすぎたためか、つま先から頭まで全身がとにかく暑く、頭はポーツとなりフラフラになりつつ何とか下山しました。歩くのが精一杯で巡視する余裕もない初めての経験で、どうやら軽い熱中症だったのかもしれない。体調管理とペース配分、こまめな水分補給の重要性を痛感しました。

今年度の秋田県側の巡視活動では目立ったマナー違反等はありませんでしたが、今後も巡視員やグリーン・サポート・スタッフの方々と連携を図りながら地道な巡視活動を行い、入山マナーの向上等に努めるとともに、関係機関の協力を得ながら適切な白神山地の保全管理を進めていきたいと思っております。引き続きご協力をお願いします。

2. 巡視員会議

12月17日(火)、令和元年度第2回白神山地世界遺産地域巡視員会議(秋田県側)が八峰町の文化交流センター『ファガス』で開催されました。この会議は6月と12月の年2回開催され、関係機関と巡視員の情報共有の場となっています。2回目は今シーズンの巡視活動が終わったこの時期に開催され、関係者38人が出席しました。





動画を用いた猛禽類の解説。さて、ここに写っている種は何でしょう？

会議では、関係各機関における今年度の巡視活動等の実施状況、合同パトロールの実施結果、核心地域への入山状況、樹木損傷等の状況、ニホンジカの確認情報等について報告がありました。また、今回は猛禽類の情報収集について、映像を用いて識別の解説を行いました。

巡視員の方からは、「魚釣りのシーズンに合わせて、合同パトロールを7～8月頃に集中して実施してはどうか」等の意見も出され、

来年度の計画について検討を進めていきたいと思えます。

今後も、白神山地を長く見てきた巡視員の方々の意見や活動を活かし、保全活動に取り組んでいきたいと思えます。(山内)

白神山地周辺地域の哺乳類調査結果

4月から11月まで元号をまたいで実施していた中・大型哺乳類調査ですが、冬の間黙々とセンサーカメラの撮影データを整理し続け(30台で合計32,496枚!)、無事報告書がまとまりました。当センターHPにアップしておりますので、詳細についてはそちらをご覧ください。撮影された動物の個体数は不明種を含めて合計4,146個体で、そのうち哺乳類は14種3,570個体、鳥類が9種576個体でした。最も多く撮影された哺乳類はタヌキの601頭で、次いでハクビシン422頭、キツネ379頭、テン276頭、ツキノワグマ253頭…と続きました。ニホンジカは八峰町の3箇所から計7頭撮影され、性別不明の1頭を除き全てオスでした。



タヌキ (2019.11.1 藤里町)



ハクビシン (2019.5.11 藤里町)



キツネ (2019.7.17 藤里町)



テン (2019.7.4 藤里町)



ツキノワグマ (2019.7.21 藤里町)



ニホンジカ♂ (2019.10.7 八峰町)

世間ではニホンジカの動向が特に注目されていますが、私個人的には重点対策外来種に指定されているハクビシンの増加が気がかりです。次ページの表に青森県側の調査を実施している津軽白神森林生態系保全センターのデータと併せて示す通り、調査地1箇所あたりに換算した



個体数(A/B)は年々右肩上がりで増加中です。本種は農作物や果樹を食べる害獣として全国各地に分布拡大し、農家の皆さんが防除作業に苦慮されています。雑食性なのでタヌキやキツネと餌資源が重なるでしょうし、木登りが得意なのでテンとも競合しそうですが、ハクビシンが日本在来の野生動植物に与える影響に関する報告はまだ少なく、白神のブナ林生態系に及ぼす影響が未知数なのが不気味なのです。西目屋自然保護官事務所の調査では、平成28年に世界遺産核心地域内でハクビシンが3頭撮影されています。これから先10年、20年とこの哺乳類調査を継続し、在来哺乳類の個体数の推移をモニタリングする必要があります。

調査年	藤里森林生態系保全センター			津軽白神森林生態系保全センター		
	A 撮影頭数	B 調査箇所数	A/B	A 撮影頭数	B 調査箇所数	A/B
H26	0	23	0.00	2	25	0.08
H27	0	25	0.00	1	28	0.04
H28	2	26	0.08	60	20	3.00
H29	95	26	3.65	91	30	3.03
H30	342	30	11.40	159	32	4.97
R1	422	30	14.07	167	32	5.22

さて今年度は新たな試みとして、冬期間ニホンジカが越冬しそうな箇所を狙って ① シカ監視カメラの設置 ② 任意踏査による食痕調査を現在実行中です。上記調査を行った八峰町内のカメラ8台と能代市梅内地区のカメラ3台を冬期間もかけっぱなしにして、今年積雪がほぼゼロの八峰町内では月に1度のペースでデータ回収を行ったところ、しばしばシカが撮影されており越冬していることが判明しました。今年は異常な暖冬・少雪で本来のシカの行動とは異なっていたかもしれませんが、若いオスが2頭一緒に写っていたりして、なんとも歓迎し難い成果が上がって複雑な心境です(12月～3月6日まででオス4頭・性別不明3頭)。そして越冬しそうな低標高地、特に風が遮られ寝床となりそうなスギ林と田畑が接する辺りを狙って食痕調査を実施中ですが、思いのほか苦戦を強いられていて…ここから先は小林専門官の記事をどうぞ！(有本)



ニホンジカ冬期食痕調査

近年、生息数が増え希少な植物など食べてしまい問題になっているニホンジカ(以降、シカ)。秋田県でも着々と分布を拡大してきており、白神山地周辺でも平成26年にはじめて撮影されて以来、毎年のようにシカの生息が確認されています。しかし、まだ個体数が少なく対策が取り辛いのが現状で、このような場合、冬を越すため集まってくる越冬場所を把握しそこで捕獲するのが効果的と言われています。

ということで、今年度の冬はシカの越冬地を探すため、当センターでは暖かい海側の八峰町周辺で食痕調査を行いました。シカが食べたと思われる食痕を採取して森林総合研究所東北支所へ送ると、食痕に付着している唾液 DNA がシカかカモシカの場合のみ、どちらが食べたかまで判別してもらえます(それ以外の動物だった場合は何も反応が出ません)。シカの反応が出れば、その食痕の採取地にシカが生息していたと証明されます。センターでは12月から調査を始めましたがなかなか難しく、サンプルを送ってもシカどころかカモシカの反応も長いこと出ませんでした。今回は、今年の冬に試行錯誤しながら集めたササ類(シカの冬の主な食料)の食痕をいくつかご紹介したいと思います。



調査の様子〜今年は雪が少なく山を下りて来なくても餌がありそう



●シカ・カモシカ

シカとカモシカは体の造りが似ているため、食痕は見た目では判別できないと言われています。そんなシカ類の体の特徴として、上の前歯が退化してしまい全くないことが挙げられます(左上写真参照)。そのため、食べる時は上の歯茎をまな板にして、下の前歯(切歯)で引きちぎるので、被食物

実際に陽性反応の出たシカの食痕
(森林総合研究所東北支所 提供)

物の断面はボサボサと噛み切れなかった繊維が残る…と言われてきました。しかし、これが当てはまるのは茎などの堅い部分で、森林総合研究所の先生によるとササの葉の様に適度なかさの植物であれば、食べ始めはしっかりと切歯で噛み切り歯形が残ることも多いそうです。今までの知っているつもりだった知識と正反対の事実にかなり衝撃を受けた出来事でした(シカ雄頭骨は小林所有物)。

●ニホンウサギ

右の写真は、有本専門官に借りたウサギの頭蓋骨。特徴的な鋭い前歯で噛み切られた食痕は、スパッと刃物で切断した様な切り口になると言われますが、こちらも葉と茎ではかなり印象が違い、小さな口で細かく噛み切るため葉の切断面はギザギザするそうです。シカのササ食痕はくつきり歯形が残ると知る前は、多分ウサギだろう食痕に多くだまされました。



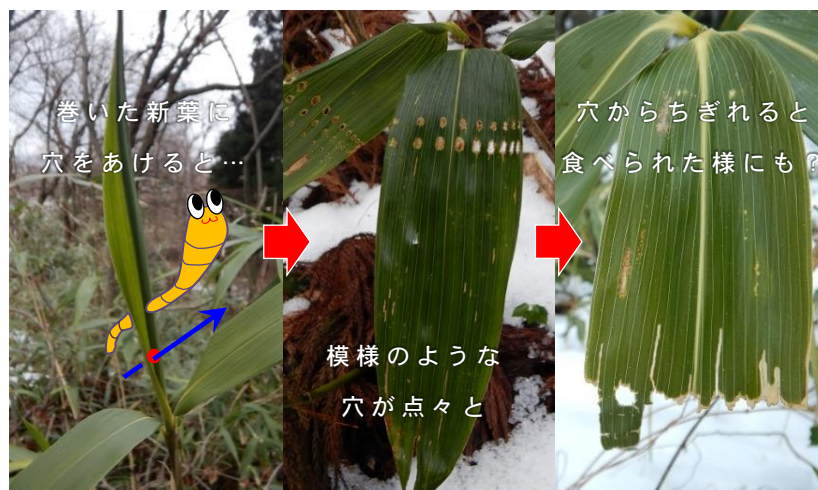
●ニホンザル

この冬の調査で一番振り回されたのは、真ん中が長く残る左写真のような食痕でした。シカの食痕もくつきり歯形が出るとわかった時点でこれが大本命シカ類の食痕だと思ったのですが、サンプルを送れどもシカの陽性もカモシカの反応も出ません。実はサルでは?ということで、人間とサルの骨格がほぼ同じことを利用し、サルの食痕再現実験を行いました。食べやすいよう半分に折ってガブリ! 葉の軸側の繊維を切るように噛み、引きちぎる…、結果、疑惑の食痕に似て

いる気がしませんか? 八峰町はサルが多く生息しており、ササも冬の大切な食料だったようです。

●昆虫類(番外編)

山を歩いていると、切り取り線のように綺麗な穴があいているササを見たことはありませんか? 私は昔、まっすぐ並んだギザギザの歯の動物が噛んだ痕だと思っていました。この穴を開ける物の正体は、“虫”。まだ、くるくる巻かれているササの新葉に穴を開けて、葉が開くと例の模様ができあがりです。この模様のあるササも、まさしく切り取り線の様に葉先がちぎれてしまうと、ギザギザの歯をもった何か齧った痕に見えませんか?



✧ ✧ ✧

今のところ37サンプル採取していますが、そのうち31サンプルの分析が終了し、シカが検出されたのは3つのみ。生息数も少ない上に、数ある食痕の中からシカの食痕を見分けるのは至難の業! もう春の足音は聞こえていますが、3月末までは調査を続けたいと思います。(小林)



(発行) 林野庁 東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター
〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添 24-3
TEL:0185-79-1003 FAX:0185-79-1005

